

総合工学委員会 総合工学企画分科会（第24期・第3回）

議事要旨

日時：平成30年12月26日（水）10:00～12:00

会場：東京大学工学部8号館2階226会議室（大会議室）

出席者：

吉村忍委員長（東京大学）、大倉典子副委員長（芝浦工業大学）、小山田耕二幹事（京都大学）、所千晴幹事（早稲田大学）、岸本喜久雄（東京工業大学）、越塚誠一（東京大学）、榎木哲夫（京都大学）、柴田徳思（千代田テクノル）、筑本知子（中部大学）、柘植綾夫（日本工学会）、永井正夫（日本自動車研究所）、中野義昭（東京大学）、中村崇（東北大学）、西尾チヅル（筑波大学）、野口和彦（横浜国立大学）、萩原一郎（明治大学）、原辰次（中央大学）、松尾由賀利（法政大学）、渡辺美代子（科学技術振興機構）

話題提供者：岡田猛（東京大学）

配布資料：

- 資料1 総合工学委員会・総合企画分科会委員名簿（H30.12.26版）
- 資料2-1 総合工学委員会・総合工学企画分科会（第24期・第2回）議事要旨
- 資料2-2 総合工学委員会・総合工学企画分科会（第24期・第2回）議事メモ
- 資料3 アートの発想
- 資料4-1 公開シンポジウム“社会的課題に立ち向かう『総合工学』を担う人材育成”企画提案
- 資料4-2 公開シンポジウム“21世紀の新リベラルアーツのすすめ”企画提案
- 資料4-3 公開シンポジウム“社会の声を聞くために”企画提案
- 資料4-4 第23期提言「社会的課題に立ち向かう『総合工学』の強化推進」
- 資料5 報告「第24期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」
- 資料6 総合工学委員会を親委員会とする分科会のアクション（予定）（H30.12.26版）
- 資料7 「学術の動向」平成31年1月号の予告

議事：

1. 新委員紹介

新委員の野口和彦先生（横浜国立大学、工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会副委員長）の自己紹介があった。

2. 前回議事要旨の確認

吉村委員長より、資料2-1および2-2に基づき前回議事要旨（確定版）の紹介が行われた。

3. 話題提供「アート思考のすすめ」

岡田猛教授（東京大学大学院教育学研究科／情報学環）より、「アートのプロセス」と題した話題提供をいただいた。近年は、イノベーションのための手法として、マーケティングやデザイン思考に加え、アートの発想が重要視されており、アメリカでは自然科学系にアートとデザインを加えた STEAM 教育が重要視されていることなどが紹介された。引き続き大学におけるアート教育の重要性などが議論された。

4. 総合工学シンポジウムの企画案

吉村委員長より、資料4-1に基づいて第23期提言の紹介や人材育成の事例紹介を主軸とする企画案が紹介された。柘植委員より、資料4-2に基づいて新リベラルアーツの振興と具現化を主軸とする企画案が紹介された。小山田幹事より、資料4-3に基づいてテクノロジー・アセスメント活用を主軸とする企画案が紹介された。大倉副委員長より、資料7に基づいて「学術の動向」平成31年1月号での『科学と科学的知識の利用に関する世界宣言（ブダペスト宣言）』から20年を経て」と題した特集が紹介された。

総合工学の定義を再確認しながらも、社会に立ち向かうための文理融合まで含めた幅広い学術の必要性を問うシンポジウムとする方向性が議論された。

5. マスタープランの検討状況

吉村委員長より、資料5に基づいてマスタープランの検討状況について紹介があった。総合工学委員から広く提案を求めると共に、総合工学の特徴である分野融合という点が、マスタープラン審査においてどのように評価されるべきと考えるのか、総合工学から発信する必要性が議論された。

以上